

アートを対話で楽しもう！—美術館建築を味わう—

1 取組の目的・全体像

【取組の目的】

- ・「芸術を介し、多様なコミュニケーションを育むまち三鷹」の推進
- ・美術館建築を介してコミュニティを育む豊かな体験の提供
- ・三鷹市民を中心に、アートを介した多世代交流の場を形成

【全体像】

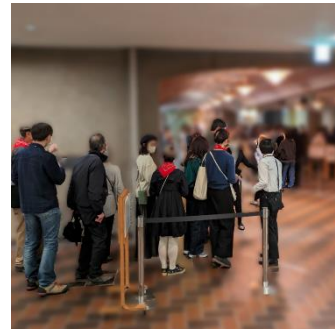
三鷹まちづくり総合研究所、三鷹市市民参加でまちづくり協議会において、三鷹市民を中心に公募を行なった他、フェイスブック、X(旧ツイッター)、インスタグラムといったSNSを活用し、広く公募した。

3月9日 東京都美術館での市民向けワークショップの開催 当日参加 19名

- ・アートカードを活用した多世代交流、コミュニケーション
- ・アートポスターを活用した対話型鑑賞の実践と展覧会鑑賞
- ・建築散策の実施
- ・「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」展の鑑賞
- ・展覧会のふりかえり



“美術館に普段いかない方にも楽しんでいただけるような美術館での建物探訪と鑑賞ワークショップを企画しました。専門的な知識はいりません。アート・コミュニケータや他の参加者との対話を通して楽しみましょう！”



2 取組のポイント

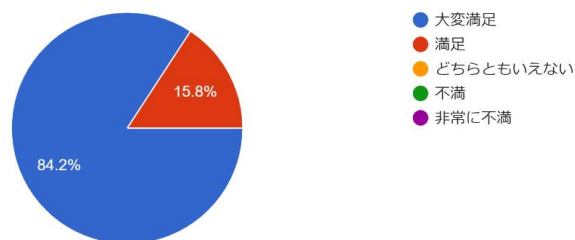
【取組で強調したい点】

- ・多世代交流の機会を創出
20代～70代以上まで幅広い世代が参加し、3つのグループ分けにおいても、それぞれのグループが多世代で構成されるように配慮した。
- ・アート・コミュニケータによるコミュニケーションを重視したプログラムの実施
東京都美術館、東京藝術大学による「とびらプロジェクト」出身のアート・コミュニケータ9名の協力により、美術館経験が豊富な人も、ほとんどいったことがないという人も対等にコミュニケーションできる場をつくった。

3 取組の成果

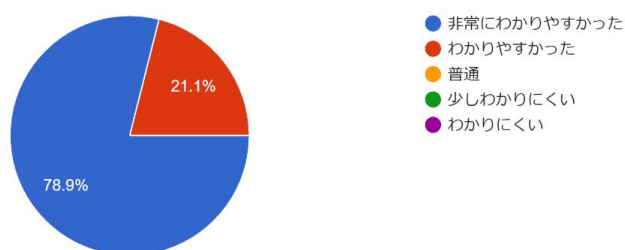
アートを介したコミュニケーションにより、多世代が交流することで、コミュニティ形成にも寄与する取り組みとなった。また、美術館に普段来ない人にも分かりやすく、参加しやすいワークショップに努めることで、誰もが参加できるアートコミュニケーションの実践を行うことができた。

ワークショップの満足度
19件の回答



ワークショップの満足度は、大変満足（84.2%）、満足（15.8%）と好評であった。

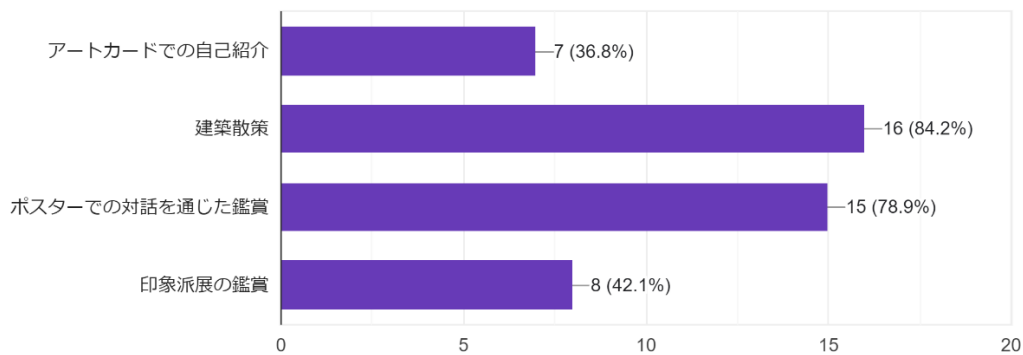
ワークショップの難易度
19件の回答



ワークショップの難易度は、非常にわかりやすかった（78.9%）、わかりやすかった（21.1%）と参加者の年齢や、美術館へのこれまでの経験に寄らず、全ての人がわかりやすかった以上の評価となり、プログラムとしても満足度からわかるとおり、難易度をただただ下げたプログラムでないものであった。

本日のプログラムで印象的なもの（複数選択可）

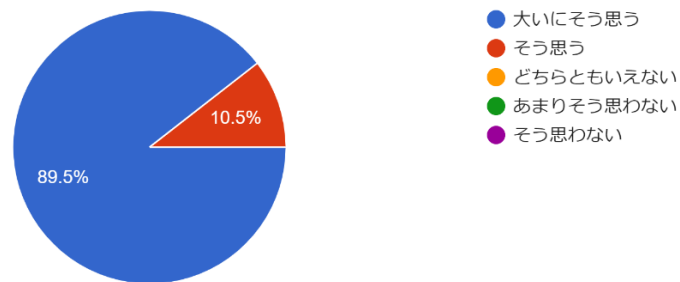
19件の回答



建築散策は、サブタイトルにもしたとおり、今回の目玉企画の一つであったが、こちらも年齢やこれまでの美術館経験に寄らず、多くの参加者に支持された。

アートを介したコミュニケーションは多世代交流に有効か

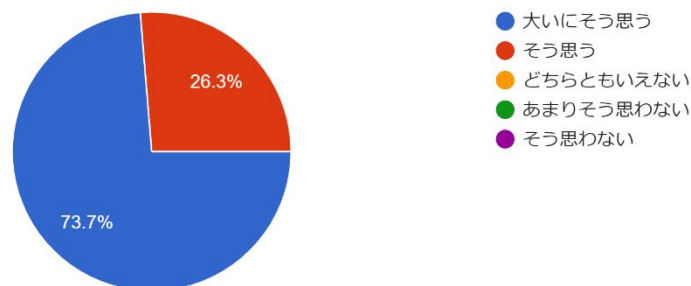
19件の回答



アートを介したコミュニケーションは多世代交流に有効か、大いにそう思う（89.5%）。本ワークショップの大きな目的の一つである多世代交流も多くの参加者に支持された。

美術館への関心は増したか

19件の回答



美術館への関心は増したか、大いにそう思う 73.7%、そう思う 26.3%。こちらも概ね支持される結果となった。

【主な参加者の声】

- ・普段得られない貴重な体験をすることができました。建物へのこだわり、美術館の館としての意義や今後訪れる際の新たな視点、絵画を鑑賞するときも同様に、新たな視点、様々な見方があることも身をもって体験することができました。
- ・これからの上野での鑑賞（絵画や建物など）見る目が違ってくると思います。
- ・美術館とひとくちにいても、美術展そのものもあれば建築や公募展、屋外建築物などあっていろいろな楽しみ方ができると思った。
- ・色々な視点が加わって対話を通してとても濃く、鮮明にみれたように感じます。とても楽しく新鮮な体験でした。
- ・建物見学も面白かった。VTS→展示→振り返りと他の方がアートカードで気になった作品やVTSで見方が増えたものを実際に鑑賞でき、視点が増えた。
- ・初めてお会いする方々と、絵の感想を語り合うことでいろいろな見方や意見があることを知り、また自分の意見に共感していただくことで自己肯定感もあがったと思います。家族以外の人との対話型鑑賞また機会があればぜひ参加したいと思います。
- ・知識をいれてから展覧会をみるが多かったのが、前知識なくポスターを見てどんな作品だろうと考えるのは新鮮で楽しい時間になりました。また気づきも多くて面白かったです。機会があればまた参加してみたいです。
- ・展覧会で実物を鑑賞する前にアートカードで各自自己紹介をしたり、ポスターで対話をしたのがとても効果的だと思いました。ポスターやポストカードで見た後に本物を見ると感動や印象がより大きくなると感じました。とても楽しくあっという間でした。素晴らしい機会をありがとうございました。
- ・気楽なワークショップで安心しました。自分から取りに行かない情報や意外な感想に出会えてよかったです。
- ・建築について実際に見て、話せたことが良かったです。もっと詳しく知りたいと思いました。東京都美術館の味わい方をいろいろと教えていただきとても勉強になりました。アートをキーワードに広がる会話の楽しさを体感できとてもほっこりした気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・とても有意義な時間を過ごすことができました。カードを使った自己紹介では、その方の人となりや垣間見る事ができました。建築散策はとても興味深く楽しかったです。ポスターでの対話を通じた鑑賞では、絵の見方や感じ方、特に絵は見る位置によって全く見え方が違う事に驚き、その後の印象派展の鑑賞に役立ちました。
- ・美術館には、あまり足を運ぶ機会が無かったのですが、これを機に訪れてみようと思いました。ありがとうございました。
- ・展示の楽しみ方が広がった。このような楽しみ方を周りの人にも知らせたいと思った。人と人がつながるツールとしてもアートが有効だと改めて感じた。こうしたワークショップを継続的に開催していただき、より広く美術に接する機会を作ってほしい。
- ・アート・コミュニケータの方々のファシリテーションによってより深みのある対話型鑑賞ができたと思います。建築散策含め、展示をとりまく環境にまで視点を広げつつ、ミクロにもマクロにも見方を柔軟く変えながら参加することができ、とても楽しかったです。

- ・大満足でしたが、あえて課題を申し上げるとすると、年齢と性別の偏りでしょうか。参加募集の時点で自治体が広く広報できないものでしょうか。せっかくのよい企画をより多くの人々・世代に活用いただきたいものです。このような企画がもっとあったら、参加機会も増えてすばらしいと思いました。

4 次年度以降の取組について

- ・今回は、立川市、国立市といった近隣市の方にも注目していただけ、また機会があれば参加したいとの声も多かった。三鷹市に限らず、近隣市にもアートを紹介してコミュニティを育むソーシャルデザインの実践や、たとえば近隣市民を三鷹の森ジブリ美術館に招いたワークショップの開催など、こうした取り組みが地域交流にもつながればと考えている。
- ・2024 年度より、東京藝術大学の文化リンクワーカーとして活動する。社会的処方としてのアートを紹介したコミュニケーションを意識し、文化的処方を学校や病院、大学などとも連携しながら、地域の力になればと考えている。

<取組の報告を受けた選考委員からの主な意見（助言等）>

- ・取組の目的として挙げていた3項目について、参加者の声などから判断して概ね達成できたと思う。取組を通じて多世代交流の場は提供することはできたと思うので、今後は多世代交流の形成に向けた取組を進められるとよいのではないかと。